

第24回 緑の市民懇話会

会議録

1 日時 平成24年 8月 8日(水) 10:00~12:00

2 場所 401・402会議室

3 出席者

(市民) 久委員、 下村委員、 日高委員、
磯貝委員、 稲葉委員、 大鋸委員、 倉品委員、 林原委員
藤田委員、 山田委員、 岩井委員、 北島委員

(事務局) 中井みどり景観課長、西本みどり景観課課長補佐、西川花のまちづくりセンター所長
巽みどり景観課緑化推進係長、坂東みどり景観課主任、大澤みどり景観課

(欠席者) 1名

4 議事内容

1 開会

2 案件

(1) コミュニティパーク事業の箇所選定について(報告)

(2) 花と緑の景観まちづくりコンテストについて(報告)

(3) その他

【久座長】 それでは、案件(1)の「コミュニティパーク事業の箇所選定」について、事務局から説明願いたい。

【事務局】 【コミュニティパーク事業の箇所選定について(報告) 説明】

【久座長】 何か質問、意見等はあるか。

【山田委員】 あすか野自治会さんの航空写真を出していただきたい。現地の状況だが、緑道と隣接する住宅との間に何らかの道路はあるのか。それと、隣接の境界はどうなっているのか。どういう状況にあるのか。

【磯貝委員】 いろいろある。岩井さんも承知だ。

【山田委員】 いろいろと言うのは、幅何mかが隣接している部分と、そうでない部分、直接隣接している部分ということなのか。

【事務局】 一応、緑道に舗装があり、植樹帯とか緑地というものがある。ここがもう住宅地になる。

【山田委員】 お隣にある個人との隣接部分なのか。

【事務局】 少し屋根も見えているけれども、道路に植樹帯、そして隣接の住宅がある状況だ。

- 【山田委員】 北道路と南道路を合わせて全長が約400mある。その400mの両サイドというのは、みんな同じような状況か。
- 【事務局】 そうなる。
- 【山田委員】 というのは、4地区の自治会を見させてもらおうと、残り3地区においては幅6mの道路で囲まれているようだ。東生駒南自治会だけが、幅1mか2mぐらいの特殊道路で分離されているように見受けられた。隣接する方からの落ち葉の問題は、どこでも木が大きくなれば当たり前のことだが、あすか野さんはその辺りの問題をどうお考えか。あすか野さんの場合が、どのような維持管理なのかということが気になった。
- 【事務局】 維持管理は公園管理課の方から自治会委託を受けておられ、その中で維持管理をされている。落ち葉についても同様。ここに書いてあるが、何回かこういった清掃活動、ないしは月1回の清掃活動等の話は聞いている。道路においても、北と南を分断する大きな道路はあるのだが、緑道そのものは10mの幅があり、その両サイドについては民地と隣接しているという形だ。樹木についても、先ほど言われたような隣接している大きな木もかなりある。桜もある。そんな中の整理等である。その緑道の中に公園がいくつか点在している様な状況だ。
- 【山田委員】 もう一点いいか。東生駒南自治会さんのところにある池だが、魚はいるのか。
- 【事務局】 むしろ魚というか蛙がたくさんいた。多分魚もいるだろうと思う。あと、見てもらったら分かるように、少し改修されており、以前の周りは、こういったコンクリートではなかった。
- 【山田委員】 面積はどうか。前々年度、東生駒さんでやられたときにも池があったが、面積はどちらが大きいのか。
- 【事務局】 昨年、一昨年にさせていただいた東生駒の方が大きいと思う。
- 【山田委員】 魚がいて、もう少し、親しみのある池でもいいかなと思う。個人的な思いがあるので、どういう状況かなということでお聞きした。
- 【下村委員】 今、こういう写真が出ているが、これは農業用に水利権はまだ発生しているのか。
- 【事務局】 そのご意見を頂戴すると思い、調べさせていただいた。実はこの東生駒の西側というのは、最近まで田んぼがあったところもある。多分、田んぼに引く農業用の水をここから取っていたのではないかとということをお聞きした。ところが今は権利関係は発生していないということで、この水を使っている農家はないようだ。
- 【下村委員】 これは、底地は市のものか。
- 【事務局】 市のものになる。
- 【下村委員】 それならば、極端な話、埋めてもいいのか。

- 【事務局】 可とは思う。
- 【下村委員】 極端な例で話をしたけれど、お金をかけて、護岸を変えろという可能性はあるのか。
- 【事務局】 それは大丈夫だとは思う。
- 【下村委員】 なぜ水が溜まっているのか。どこから取水しているのか。流域はあるのか。
- 【事務局】 取水の管があり、雨なんかはここに入ってきている。
ただ、この計画書にもあるように、この池は利用したいようなことが書かれているので埋めるといことは少し難しい。
- 【下村委員】 もし、水利権が発生していないなら、浅くするとか。
- 【事務局】 そういう意味なら、樋もあるので可能かと。
- 【下村委員】 少し関連して、先ほど山田さんがお話された、一番最初の緑道の話の絵を少し確認させていただきたい。北に400m、南に400mのこの緑道というのは、都市公園法上の緑道で、都市公園に位置付けられているのか。
- 【事務局】 そうということになる。
- 【下村委員】 ニュータウン計画の中で緑道というのは、珍しいと思う。千里泉北なんかは、普通だったら街区は、フェンス等で裏のお宅と線を引いているもの。それを背割りと呼ぶが、その背割りの所に緑道を設けるといのはよくある。
- 【山田委員】 だいたい特殊道路で、2mから4mか。
- 【下村委員】 千里とか泉北でやられている緑道計画は、そこを通れば車とぶつからないで、小学校に行くことができたり、近隣全体に行くことができる。だからこそあすか野の緑道が珍しいと思う。結構生駒市の中でも他にはない場所ではないか。
- 【事務局】 緑道というのは南の方の萩の台に、萩の台緑道というのがあるが、かなり高低差はある。規模的にも、もう少し縮小したもので、幅も5m6mぐらいのものになる。
- 【下村委員】 先ほど説明があったように、今回のコミュニティパーク事業の中で申請があり、対象とされているのは、北側と南側の広場と緑道全部になるのか。かなり大きいので頑張らないと。
- 【事務局】 ここにも書いてるように、桜をすごく大事にしている。
- 【下村委員】 今後も植えていかれるということで、今回の事業をきっかけにずっと10年間は継承していこうという動きは見られる。
- 【山田委員】 どうしても気になるのは、住宅と隣接している点だ。桜の成長は早いからせっきゃく熱い想いで植えたものでも、数年たったら切ってくれと言われることが私の経験からある。せっきゃく熱い想いで植えたのに、また、切れと言われた時の悲しさというのは絶えられない。管理の水準と言うか、その辺りはどうなっているのか。
また、URさんが開発した隣の木津、光台なんかは、緑道、公園とか児童公園のそうい

った広場と接する間の特殊道路は、全部幅 2 m でずっと間隔を取っている。そのため、下村先生がおっしゃったように、ちょっと珍しいと思う。

【久座長】 ちょっと確認をさせてもらいたいのは、今後ワークショップ(WS)をやるということ。だから、あまりこの段階でデザインの方向性を出してしまうと、WSをやっている意味は無くなってしまう。だから我々はそこまで踏み込んで審査をするのではなくて、先ほど質問いただいたように、このWSがうまくいくのかどうかと、あるいはここを改善するような意欲や、あるいは終わってからの維持管理の意欲の方を議論をしておいたほうがいいのではないかなと思う。ひょっとすると、WSで近隣の方が参加されて、そんなに桜を植えられたら困るとなってくるとデザインは変わってくると思う。逆に言うと、あまり最初から自治会さんが、ここは桜だという話でWSをやってしまうと、逆にWSを限定的にしてしまうので、そちらの方が心配かなという感じはする。

【下村委員】 久先生がおっしゃるように、いくらかの自治会さんはこうしたいという形が決まっているような感じのところが見える。もし、そのあたりを選ばれたとしたら、もう少し幅広く、意欲的に参加していただく人のみならず、全体の自治会さんの意見をちゃんと集約してもらいたい、ということは付記事項としてつけておいてほしい気がする。

【林原委員】 桜に関しては、このように書いてある通り自治会の総意であると決議されている。だから前向きにとらえていいのではないかなと思う。ただ、メンテナンスは分らない。いろんな諸問題もあるし、クリアしていかなければいけないことがあるが、いいことだとは思っている。

【稲葉委員】 本当に素敵な緑道だと思うので、下村先生にも是非桜の季節に行っていただきたいと思う。生駒市としては、本当にあそこを絶対に残して欲しい緑道だと思ってる。今回こういう計画を持たれるのは本当に素敵だと思うので頑張っていたきたいと思う。

【岩井委員】 わたしはあすか野の住民で、この北の遊歩道、南の遊歩道は地域住民と一体になった日常の生活観であるというのは理解している。桜が老木化してきて、そして枯死化してというような部分も見ている。その緑道を桜並木にすれば、素晴らしいまちづくりにもできるのではないかなと思う。しかし、突然今日の会にこういうものが提案されたので、現地に住んでおられる者としても、まだ十分隅々まで見切れてない部分もあるので、十分に申し上げられないが、いいと思う。自治会としても良いご提案をご希望されているという認識だけは持っている。

【磯貝委員】 このあすか野の公園に関連して、非常に意欲のある報告とは思いますが、ちょっと大き過ぎないかなと。1年間でこれだけの事をやろうと思ったらすごく体力がいるのではないかなと思える。あすか野さんとは、ボランティアであすか野小学校をやったときも、1番多い応援団が出て来られて素晴らしい所だと思っている。それはもう十二分に認めている。ただ、この北と南とを同時にこれだけの公園も含めて1年間でやるっていうのは、非常に厳しいなという気がする。途中でギブアップされる訳ではないだろうが、その辺のところの意気込みとか、対策とか、そういうものが十二分に理解してからの結論なんじゃないかなという気がする。

【事務局】 意気込みなどは、今日こうやって傍聴に来られているので、事務局のほうには十分伝わっている。また、WSは当然単年度だが、それがあある内に市がお手伝いできる基本的な作業をさせていただく。その下積みを作っておけば、後で自治会さんのほうで9年間かけて桜の木を植えつつ、緑道を作り続けるという計画だと理解をしているので、計画に基づいてやっていただける。組織的にも「桜を守る会」という会を新しく自治会で設立されて

いる。

【下村委員】 私も、最初に面積が大きいという意見を持ったけれど、もし選ばれたときには、全部やろうと思わないで少しアクセントをつけて、WSの中で決めていただけたらいい話だと思う。桜といってもいろんな桜があるので、ソメイヨシノを選んで50年後にもう一回植え直すのか。また、違う桜の仲間を植えていくという方向もあるだろう。

例えば、造幣局などはいろんな種類で毎年1本ずつ増やしていている。造幣局ほどいろんな桜は入れる必要はないと思うが、やはり統一していろんな種類を考えていただきたい。

今回4つもの候補が出てくるとは思わなかったが、逆に言うと非常に有難いことだ。しかし、最終的にどうやって決めていくのかという問題がある。私はやはり、子供からご年配の方々、また女性やいろんな趣味の方、いろんな方々が入って公園づくりからコミュニティがさらに広がっていくと思うので、それがどうやって今後ずっと継承していくのかというところの話を聞きながら、点数を付けてみた。この4つを3段階くらいには点数を付け終わってはいる。それで、どれがいいかっていう話をしながら選択していくが、なかなか難しいなど。

結構いろんな組織が入って来られて、人数は20人から40人くらいおられ、面積的な所も大体街区公園といいながら、7000㎡もある街区公園がある。1年間話し合いながら、どんな公園にしたいかっていうのを決めて、次の1年間で作っていくのがこのコミュニティパーク事業だったと思う。だから、その動かし方もしっかりWSで決めていかないといけない。

大きい公園で予算はかかるし、時間は大変だという事になれば、業者さんを入れないと仕方がなくなってきたりもする。やはり、皆でつくるということまで含めて可能性を感じながら、決めていかないといけない。と言いつつ中身まで考えてしまうが。本当は久先生のおっしゃるように、中身は地元WSで決めていってもらわないといけない。だから、その辺がちょっと微妙になる。ここだったらこんな風にしたらいいなど、写真を見ながらどうしても思ってしまう。その辺が、私個人の印象も込めて、どうやって決めていけばいいかなど。それが気になっている次第だ。

今までどうやって決めてこられたのか。去年は2件出てきたうち、話し合いで決めていた。投票はなかったように思う。

【事務員】 その通り。

【久座長】 その辺りは、そろそろ図ろうかという気持ちでいた。どうしましょうかということだが、その前に今までのお話を整理させていただくと、あすか野さんの応援演説はたくさん聞かせてもらった。他のはいかがか。

【山田委員】 当初から携わっておる委員で申し訳ないが、コミパの事業を、初年度から今年で何回目になるのか。6回目になるのか。毎年、応募されている数だが、そこから漏れた団体さんの取り扱いはどうなっているのか。1回目にこぼれた人、2回目にこぼれた人、3回目、そして今日。その方が毎年申請されているかどうか知らないけれど、申請っていうのも大変だと思う。事務局も、申請する側も、私も分かる。もし、第1回目に落ちた団体さんの想いがまだ繋がっているとすれば、その人達はどういう扱いになっているのだろうか。これは懇話会のありようが問われていることで、座長さんがおっしゃった通りだとは思いますが、そこらへんどうなっているのか。どういうふうに理解したらいいものなのか。

【久座長】 例えが良いかどうか分からないけれど、下村先生の話の延長上で言うと、大学もこう何度も何度も受験して落ちる人もいるが、それはやはり選ぶという限りは、そういうことが起こらざる負ないという感じはする。ただ、それを何度も応募されたから、そこを優先的

にしようというのは、この懇話会の決め方の話だ。やはり、もっと素晴らしいものが出てきたら、そちらを優先しましょうというのか、その辺りは決め方の問題だと思う。まあ、ちょっと脱線話だが、うちの大学なんかも、沢山受験するから、どこで受けて、どうなったかっていう結果が全部備考欄に載ってくるが、十何回同じ所を受けていただいているという学生もいる。なんとかならないかとは思いますが、やはり点数が足りなければ、通せないところがある。

【磯貝委員】 　　ちょっとよろしいか。今、4件来ているところだが、各自治会を見ていくと、いろいろ生駒の地域性がある。南地区も結構でている。北の方も前は鹿ノ台、ひかりが丘、東生駒北公園そんなところか。で、南は集中して2件くらいか。それから中心部としては、良い場所に出しておられる所があるなと思った。いろいろそういった地域割りも参考にしながら選ぶのも一つの方法ではないかなと思う。

【久座長】 　　あと、あすか野さん以外のところで応援はあるか。
先ほどから聞いていると、あすか野さんを推す声が多いというようには思うが。

【山田委員】 　　東生駒さんの、池のありようもWSでお決めになるだろうが、今後の展開でこれも活かしたい。東生駒にあるというものの、こういう池を絡ませたりニューアルというのも個人的にはおもしろいかなと思う。

【久座長】 　　東生駒の応援演説をいただいた。

【磯貝委員】 　　真弓1丁目さん。少し難しい土地の形状ですが、考えてみる余地はある。ちょっと高低差が難しいが、スパッと平らに切れればそれが1番いいのだけれどそれには時間がない。

【久座長】 　　どうしてもそういう物のほうで決めてしまうが、折角応募されて来ているのだから、やはり、その応募の内容で決めて差し上げないと、せっかく一生懸命作文をされて、違うところで決められるっていうのも如何かと思う。特に、その辺りの意欲とか地域の連携があって、ちゃんとWSができるのかという観点をちゃんと議論をしていかないと、応募の申請の方々に、申し訳ないなという気はする。いかがか。

【岩井委員】 　　今回4件の応募団体が出ているが、選定の件数はこだわらないのか。

【久座長】 　　1件のみになる。

【岩井委員】 　　年に1件ということか。

【久座長】 　　2年に1件だ。

【大鋸委員】 　　あすか野の応援よろしいか。というのは、サロンの方にもずっと関わらせていただき、生駒にも桜をなんとか根付かせたいという動きがあったのだが、結局は実現しなかった。自治会さんで、桜を一生懸命植えて育てようという意欲を非常に買いたい。それから、今年、楽校の卒業生OB、OG会であすか野さんのところの桜を見させてもらい、桜をあそこで見させていただいたのは初めてだったが、すごく素敵で良かったという気がした。やっぱり桜は私個人もすごく好きで、自治会でそれだけ意欲をもってやっておられるなら、個人的には応援したいと思う。

【日高委員】 　　東生駒南自治会の人口が増加しているというふうに関き、なんととっても地域の皆さん

の公園との関わりの中に、子どもみこしの出発地点であるのは地域の繋がりができるためにも、ここを是非いいきっかけとなって成功させていただきたいなという想いを持った。

ましてや、池の話があったが、本当に池というのは、最初は田んぼの溜まる用水の池だったと思うが、だんだん田んぼが無くなっていくそんな中で、池だけ残っているような形で、蚊が湧くとか汚いとか思うようになってしまい、それは池にも可哀相だと思う。それをなんとかして活かしたいというような想いを私はしっかりと受け止めたい。

また、ここに「ふれ愛」の場としたいなんていうのもすごく嬉しい。井戸端会議の場を提供しますなんていうのも、市民の繋がりの場になるのかなと。私もここを通ったことがあったり、利用したりしたことがあるが、夏なんかとても涼しくていい。どこからでも歩いて来れるというふうにも書いてあるし、いいなあというふうにも思う。是非子ども達も含め、お年寄りも含め、交流の場になるような形でWSを開いて、成功させてもらえたらなというような想いがある。

【久座長】 なかなか難しくなってきたが、投票させていただく。挙手はちょっとまずいか。誰が入れたかというのが分かるので。

【磯貝委員】 決定権はこちらにはない。

【久座長】 決定権はないが、事務局がこのまま任されても困ると思うので。

【山田委員】 1点だけいいか。これトータルでいくと長さが400m、400mの800mになる。これは、他の分野で申し訳ないが、景観法に絡む生駒市の景観基本計画が今策定されている。これは、都市公園という位置づけということになると、重要公共物の中での位置づけも景観法では可能になる。とするならば、この重要公共施設をコアにしたまちづくりのきっかけになればいいかなという視点を一方で持っている。これだけの長さのところは生駒には他にないので、いいチャンスかなという視点は持っている。

【久座長】 景観重要公共施設の場合は、そのデザインとかを縛るために使うというのが多いが、今回はWSなので、その辺りはちょっと位置付け的には、また景観のほうで考えてもらうという話になる。

【下村委員】 私も聞いた時にあすか野さんというのは、ずっと継承して桜を植えていく上で、10年間は活動してもらえないかなと思った。先程、お話があったように、行ってみたらすごく綺麗といったお話があったので、そういうようなポテンシャルを活かして、コミュニティパークをさらに良くするという考え方が一つある。

で、ちょっとあまのじゃく的に考えると、今ほとんどの街区公園というのは全国的に、近所の公園が使われなくなりだしてきていて、大規模な公園の方がよく使われている。近所の公園がだんだん使われなくなってきていて、それを何とかしたいというのが今回の真弓さん。そしてここで書かれているように、今は折角の素晴らしい財産が活かされていなくて、利用者が少ない。で、これをきっかけに未就学児童の保護者の交流の場にして、随時意見交換する機会を整えて、サロンを開催して、持続的にやって行きたいと書いておられる。

これがほんとうなら素晴らしいことだと思っている。なかなかその辺りも何とかやっていきたいという意気込みは見えないこともないが、実はその辺りが気になっている。本当に使われていない公園が、こういう再整備によって使われだしていけば、公園づくりに関わるものとしては、非常に事業が効果的にコミュニティづくりに繋がっていくと。しかし、これは下手をすると、整備をしたものの相変わらず、使われてないという可能性も含んでいる。こんな事を言ったら真弓の人に怒られるかもしれないが、なかなかその辺で個人的には迷っている。

【久座長】 茨木の山手台っていうニュータウンの中で、同じようにWSをやって再整備したところ、最初の方は近所の方が市役所に文句を押しかけてきた。いやいや文句だけではなかなか難しいですよってということで、WSで再整備したところ、それから見事に皆が集まるようになったっていう事例があるので、そういう意味ではこのWSを契機に盛り立てていくという話は、他のところでも一緒だと思う。だから、できるだけWSの参加人数を増やしていただきたい。

では、いいか。また一個決まれば、それに対するアドバイスなんかも若干いただければというように思うので、とりあえず皆さんに今、お手元に紙があるので応募団体の名前を書いていただきたい。資料の1の1番上に応募団体名があるので、ここが良いというところを1つ書いていただきたい。

(投票)

(開票)

【事務局】 それでは報告させていただく。あすか野自治会さんが7票、鹿ノ台西3丁目自治会さんが0票、真弓1丁目自治会さんが3票、東生駒南自治会さんが2票。

【久座長】 ということなので、多数決ということで、あすか野自治会さんをこの会としては推すとさせていただきます。それについては、もう少しこういうところを頑張ってくださいとか、こういうところを注意してくださいということで、ご意見いただきたい。

【山田委員】 くだいようだが、維持管理の水準だ。私も生駒を緑の町にしたいという想いは強いから植えたが切られてしまったでは非常に税金の無駄なので、ひとつ宜しくお願ひしたい。

【磯貝委員】 ちょうど桜が代替わりの時期だからタイミングがいい。

【山田委員】 まちづくりして40年も経ってるので。だいたいそんなものか。

【磯貝委員】 じっくりといろんな桜を地域のためのクラブの場として、頑張っていたらいいと思う。

【林原委員】 桜の10年計画というと、10年先を自治会の総意で決めたというのは素晴らしい。なかなか場当たりでやったとしても、10年先は見えていないもの。非常にトライアルで良いことだなと思う。ただし、10年先を見ている、毎年少しづつ見直しをして、これでいいかというステップアップをしていただきたい。で、10年後というと10歳年を取るから高齢化する。随分人口構成が変わっていくと思う。そういう面で少しこれを毎年きちんと管理し、実のあるものにしていただけたらいいなと思う。一発勝負じゃないところが魅力を感じる。

【下村委員】 自治会さんからの申請があったが、ここに書かれているように、地域の連携ということで、WSに参加する老人会とか子ども会とか乳幼児の会の方から積極的に意見を聞いていただいて、ゆくゆく利用していただくようなWSを上手く行っていければ、というふうに思う。

【久座長】 私も下村先生と同じで、会に呼びかけるのは核になる人だというのはあるが、広く呼びかけていただき、より沢山の人にWSに参加をしていただきたいと思う。そうすることで、愛着もぐっとアップすると思うので、そういうことを是非ともお願ひしたい。特に若年層の参加を。やはりその想いを何十年後につなげてくためには、これから住み続ける年数の長い方に、特に関わっていただき、是非とも声をかけていただければ、というふうに思う。

小学校、幼稚園のPTAさんも含めて。

下村先生にもおっしゃっていただいたが、やはりソメイヨシノは寿命が短いので、桜の樹種もソメイヨシノだけでいいのかどうか、というところも考えていただければいいかと思う。例えば、珍しいところかというと、緑の桜の花を咲かせるギョイコウとか、少し値段も張るが、日本で一番早く花を咲かせるカンヒザクラなど。まあ、いろんな種類があるので、それを並べて札を立て、それぞれの特徴が分かるようにしてもらおうと、子供たちも勉強にもなるかと思われる。いろいろアイデアは出せそうな気がする。

WSの仕方ですけども、3つの広場とそれを繋ぐ2つの緑道があるので、先ほど下村先生が言われたように、うまくWSでメリハリ付けてやっていただきたい。で、あの緑道に関しては長いので、全ての絵を描くというやり方もあるけれども、なにか標準的なパターンというのを作っていただいて、それを参考にしてやっていただくという、そんな効率的なデザインのWSのやり方もあると思われる。

【稲葉委員】 県が春に奈良のヤエザクラの普及のために、苗木を無料で配布されていた。まだ残っているのかどうかは分らないが、あんなのも問い合わせたらどうかと思う。

【山田委員】 県のどこか。

【稲葉委員】 県庁のみどり関係か、公園関係か。

【山田委員】 公園緑地かな。

【久座長】 お住まいの篤志家の方がおられたら、寄附で1本1本名前付きの桜を植えるか。

【大鋸委員】 栃木だったと思うのですが、「日本桜を守る会」という普及させる会に申し込んだら、個人でも100本くらいはいただけるような会があるので、そのあたりを上手く利用していただきたい。いろんな手を使って是非生駒をサクラの名所にさせていただいたら、皆さん推薦された方も嬉しいかと思う。

【岩井委員】 確かパンフレットがあった。

【大鋸委員】 楽校のOB会でなんとかしようかという話で、全部ネットで調べたときの資料がある。

【岩井委員】 冊子があるなら。それを、また。

【林原委員】 私事ですが、安堵町、岡崎川だったか。何も無い川のたもとをちょっと開墾して、桜を50本くらい植えた。1本植えたら5千円で年間管理費が千円という形で、結構ボランティアが集まった。これを開発したということで県から表彰を受けている。こういう事例も参考にさせていただきたい。それからこれは大阪の話になるが、大川とか中ノ島で、建築士の安藤忠雄氏をご存知だと思うが、氏の提唱で桜の木を植えた。事務局にサポートするような形で私も参画した。これは1本1万円だが、30名で1本という合同樹木になっている。だから、30万円の基金で、それを寄附した人は、1本の木に銅版を30名分刻印して木に貼り付ける格好でやっている。これにすごい人気が続いていて、ようやくほぼ完成した状態にある。それも何年がかりか。何も無いところに作るということだが、こんなのも参考事例になるかと思われる。

【大鋸委員】 安藤先生の分はものすごい応募があった。

【林原委員】 もう、見えるところが無いくらいすごい。

- 【久座長】 ニュータウンの活性化を考えると、新しく産まれた方の出生記念の植樹をしてあげると、なかなかこの街から去れなくなってしまうので、そういう面白いニュータウンの活性化と、この事業の組み合わせというのもあるかと思う。ドイツには「ナーメンバーム」といって「名前がついた木」というのがあり、管理する人の札が付いており、その人が水をやらないと、枯れたらその人の責任だというのがはっきりと分るような仕組みもある。いろいろアイデアを出していただくと面白いことができるかなと。長いから故にいろいろアイデアが出てくるのかなと思う。
- 【下村委員】 何度も繰り返しになるが、広いので全部やろうと思ったら失敗すると思う。しかし、折角コミュニティパーク事業でやるので、なにか変わったなっていう事も協力していただけたら。やはり周りに対して、コミュニティパーク事業を皆でやったということを強調したい。と言って全部できるかという、なかなか全部できないと思うので、ポイントポイントでやると。で、緑道については補植をやっていく中で、名盤や名札を付け、あと舗装もやり直すのではないかなと思うが、全部やり直そうと思うと、すごく大変になってくるのではないかなと思う。コントロールっていう言葉は悪いが、その辺りをうまくWSで議論していただき、出来ることと出来ない事を議論していただきたい。ちょっと久先生の繰り返しになるが、全部デザインしてしまうと大変なことになってしまわないかなと少し気になっている。
- 【事務局】 事務局としても、今言われたように緑道そのものが長くて、真ん中にその園路というものがある。その園路を樹木の根自体が押して、段差を付けて歩きにくくしているっていう所がある。例えば、またそれを取り出してコミュニティパーク事業にしてしまうという考えもあるかと。
- 【事務局】 先ほど先生の方からソメイヨシノのお話が出ていたが、自治会さんの参考資料の計画案だが、この中で桜の種類も考えておられて、病害虫が発生しにくい種類のものを選ぶと。当面ソメイヨシノは避けるとある。
- 【久座長】 我々が決めるわけではないので、最終的には事務局の方で、我々の意見を重要な参考意見として決めてもらえればと思う。
それでは、続いて2番目の「花と緑の景観まちづくりコンテスト」について。事務局のほうから説明いただきたい。
- 【事務局】 【花と緑の景観まちづくりコンテスト】について（報告）説明】
- 【久座長】 恒例ということで通常通りの審査だが、何か意見、質問はあるか。
定着してきているので、例年通りでよろしいか。現地審査はいつも小グループで行っていただいたと思うが。
- 【事務局】 昨年は皆さん方で行っていただいた。一昨年は小グループで行っていただいたと思う。
- 【久座長】 今年はどうするか。昨年通りでいいか。
それでは、例年通りの手続きで進めてもらう、ということよろしいか。
それでは、また追って連絡ということで。
- 【事務局】 できれば、9月頃の皆さんの都合の良い日をお聞かせ願いたい。
- 【大鋸委員】 毎年、7月の一番暑い時を9月に改善していただいたということで、その方がお花も喜

ぶかと思う。

【磯貝委員】 先日サロンで出た話だが、この時期はいろいろな行事があり、現地審査もあるということで非常に難しい時期だ。なかなか難しいという意見が結構出ている。

9月に、という時期も分らないことはないが、今年は別にして、時期や方法を来年度以降、再検討できる余地があるのか。やはり花の色が一番綺麗な時期に見に行くのが良いのではないかと思う。

【久座長】 なかなか難しいのは、オータムフェスタから逆算していくため。オータムフェスタの時に表彰をしない、という事であれば、もう少し押せる。

【磯貝委員】 要するに、オータムフェスタの10月末をどうするか。その時に、絶対しないとダメなのか。春秋のイベントの春側ではできないのか。

【稲葉委員】 前にその話は何回も出ている。いろんな関係で無理だと言うことになった。だから、本当に現地審査をしなければいけないのかと思う。いい季節のものを審査に出して来られる。でたらめの写真を持って来られるとも思わないので、写真審査だけでもいいのではないか。例えば、エコの緑のカーテンなど、あれは写真審査だけ。だから、そのほうが綺麗な季節の写真が出てくるのではないかと思う。

【磯貝委員】 写真の枚数を沢山だしてもらおうという条件で。

【稲葉委員】 6枚とか。それくらいの枚数を出してもらわないといけない。

【磯貝委員】 考えていかないと、いつまでも毎年同じ意見が出てくる。

【稲葉委員】 見に行ったもののこれで審査していいのか、と思うので。例えば、他の植物関係のコンテストでは全部写真での応募だ。それと同じことなのではないかなと思う。

【事務局】 事務局としては、応募用紙の活動写真と景観写真を、合わせて縦横で合計8枚張れるようになっていいる。また、審査においては、事前に事務局の方で現地に行き、そのときに写真を一部撮影している。書類審査でよければ、そういう形で対応させていただこうと思う。

【久座長】 いかがか。毎年当たり前のように現地に行っているが、逆に印象が悪くなるからもう必要ない、見に行かないほうが良い、という意見もあると思う。

【稲葉委員】 本当に、そんな気の毒なところが結構ある。

【稲葉委員】 前のバラのところも、この季節には何も無い。

【日高委員】 昨年もそうだが、行けば、やはりその時に綺麗なものが印象として残る。本当は綺麗だったが昨日散った、というのは不利だ。

【久座長】 1点だけ心配なのは、スケール感というのがある。アップにした写真だけをとって見たら綺麗だが、実は全体の空間の中でほんの一部だったという場合、どのように我々は評価すればよいのか。

【稲葉委員】 全体図を一枚必ず出す、というのは必要だと思う。

- 【日高委員】 来年はそんなふうにして、写真できちんとどういう形で出していただくかを決めて、写真で審査できる状況にする。そして今年はまだ一回行って、スケールとか現場の様子とかを見てくる。迫力は現場に行ってみないと分からないので。
- 【稲葉委員】 それぞれパネルに貼って応募していただくというのは、こちらから応募の紙を用意するのではなくて、応募してこられるくらいだから、パネルに貼るぐらいのことはなさるかと思う。
- 【日高委員】 現場に行って努力の裏側が見えるみたいなのところも。
- 【下村委員】 募集要項の中に現地調査しますっていうのは書いているのか。書いているなら、今年は仕方ない。
- 【事務局】 昨年から事例を取り入れさせていただいたが、先程も言われたように、現地調査をせず、いろんな方法でもいいのかなと思っている。それと、前回も話の中で出たのは、いかに植えた時が綺麗であっても、それを長く維持するためにどのように努力されたかという点も大事だということ。その辺りが、審査の時期に影響を及ぼしていくところもある。その辺りをもう少し整理できたら、現地調査もいいかなと考えられるのではないかなと思う。
- 【大鋸委員】 今年は21グループだと聞いたが、年々少なくなっているのか。
- 【事務局】 年々ではない。昨年は30グループ、一昨年が20グループで、若干の上下はある。
- 【久座長】 では、来年度以降はまた時間をかけて検討するということで。今年はとりあえず現地に行くということで。
遅ければ遅いほど花には条件はいいので、どこまで待てるかという感じだ。
- 【事務局】 それでは、日程は事務局で案を出して、皆さんに案内を差し上げるという形で進めさせていただく。なるべくメディア、ビデオ、先程出た中で進めさせていただきたいと思う。
- 【稲葉委員】 現地審査の日程は今日決めていただけたほうが有難いが。
- 【事務局】 先生方はその日程は今、お分かりいただけるか。それなら今日、決められる。
- 【久座長】 私は全て参加できないと思う。丸1日空いているのは、なかなか難しい。
- 【事務局】 できれば、お花の状態などを考慮しつつ、9月中旬以降がいいかと思う。
- 【大鋸委員】 イベントに間に合うぎりぎりまで延ばしたほうが、意味があるかと思う。
- 【事務局】 9月の最終週では。
- 【下村委員】 26日なら1日空いている。
- 【久座長】 お任せする。
- 【事務局】 9月26日の水曜日のご意見をいただいているが、いかがか。

(異議なし)

- 【久座長】 では、26日に決定する。
- 【事務局】 予定として、朝から丸一日ということをお願いする。
- 【久座長】 最後に、その他としてなにかあるか。
- 【林原委員】 今回団体名称を変えたということで、私は個人的に疑義がある。「緑の市民委員会」を「緑の市民懇話会」と変更したということで、突然で驚愕している。今までの目的を達成したというように理解したのだが。
- 【久座長】 目的を達成したというよりも、地方自治法の関係だ。だから事務局としても、どうすることもできないということだ。
- 【林原委員】 そうすると、市民委員会という定義とか意味合いとか持つイメージとかに比べて懇話会は、本当に委員会の実施的な内容に相応しいのかどうかということ。ちょっとギャップがありすぎる。懇話会といったら、即ち懇親会とか、懇談会とか、そんなふうに取り取られてしまう。
- 【久座長】 地方自治法はそうでないとだめということになる。
- 【林原委員】 そうだが、どちらかという位置付け的には、諮問的な部分を踏まえて、意見とか助言を出して、行政支援とか施策に反映できたらと思って活動してきたが、名称そのものがどうも引っかかってしまう。
だから、許せば、懇話会という名を他の名前に変えていただけたらなど。
私は市民参画的な広い位置付けで応募してきているわけで、市民が全員参画できないにしても、その中で、有志というか、それぞれの方が参加して運営して行政支援すると。それが施策に反映できれば、ということで、毎回会議に望んでいる。
懇話会というのは、会議性という性質があるのかないのか。中身が一緒だとは聞いているが、懇話会というのは幅広い意味でとらえたら、ごく普通のパーティー的な意味合いになってしまう。
- 【事務局】 イメージ的な話をおっしゃっていただいたが、懇話会だからといって、決して座談会的な会ではないので、しっかりと意見は聞かせていただいて、しっかりと反映させていただく準備はしている会だ。
久座長からもあったように、地方自治法上の制度的なものから考えると、やはり「委員会」という名前は使えない。では、どういう名前にしようかということで、全庁的に「懇話会」となった。市民委員会のみが懇話会に名前を変えたのではない。現在ある委員会で、準附属機関に関与しない機関に関しては全て「懇話会」ということに決められているので、その辺のところはご理解いただきたい。中身的には、今までいただいた意見を反映して、ということには全く変わらないので、ご理解いただきたい。
- 【林原委員】 懇話会というのは、変えないという方向か。
- 【事務局】 そうだ。要綱も整備して、決裁が終わった部分がある。
- 【久座長】 これは、市役所全体の統一名称ということで、もう一言付け加えらるるならば、生駒市だけではない。全国的にチェックが入り、条例に基づかないもので勝手に決めてるんじゃないか、ということになってきているので。その辺りはご理解いただければと思う。

事務局で用意した案件は以上だが、皆さんのほうから PR やイベント告知等はあるか。ないようなら今回の案件は以上となる。次回の日程について一旦事務局にお返りする。

【事務局】 10月の初旬から中旬頃に予定している。案件については、「花と緑の景観まちづくりコンテスト」等について予定している。日程は決まり次第連絡させていただくので、よろしく願います。

【久座長】 これをもって、「生駒市緑の市民懇話会」第24回の会議を終了する。